

ICT支援員だより

平成29年度 第10号

平成30年2月1日 発行



過去の「ICT支援員だより」は次のURLに掲載しています。<http://www.akitakata.jp/ja/shisei/section/kyouiku/y124/s575/>

ICT活用モデル校の実践事例

- 学校名 向原小学校
- 実施日 平成29年9月12日(水)
- 学年 第5学年
- 教科 社会科
- 单元名 わたしたちの食生活と食料生産 「水産業のさかんな地域」
- 本時の目標 水産業に関わる研究が進んでいることを知り、これからの水産業について関心をもつ。
- 本時の学習展開 (主な学習活動)



	主な学習活動	ICT活用	
		T (指導者)	S (児童生徒)
導入	1 「うなぎの蒲焼」の写真と「近大なまずの蒲焼」の写真を見て話し合う。 2 本時のめあてを確認する。	A プロジェクター型電子黒板を使って、「うなぎの蒲焼」と「近大なまずの蒲焼」の写真をパソコンで提示する。	・なまずの蒲焼の存在を知り、うなぎの蒲焼に台頭してきたことに対して課題意識を持つ。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【めあて】水産業にかかわる様々な研究について知り、これからの水産業について考えよう。 </div>			
展開	3 このような研究がされたわけを予想する。 4 資料を読んで、「うなぎ味のなまず」の養殖について読み取る。 5 資料を読み取り、分かったことを話し合う。	◎近大なまずの研究についてのVTRをプロジェクター型電子黒板に提示する。 ◎近畿大学の有路先生の話をもとに資料として配布する。 ◎全体に共通の資料と、班によって違う資料を配付し、独自の情報を得ることができる環境をつくり、情報収集の意欲を高める。 ◎分かったことをホワイトボードに書かせる。	△大切だと思ふところに線をひきながら読ませる。

		B プロジェクター型電子黒板を使って、書画カメラで資料を提示する。	・自分たちの資料をプロジェクターに表示し説明する。
終末	6 本時のまとめと振り返りをする。	◎今日の授業を通して、これからの水産業について考えたことを書かせる。	

○活用の様子



【**A** なまず井の存在を知り、ウナギ井に台頭してきたことに課題意識を持つ】



【**B** 自分たちの資料をプロジェクターに表示し説明する】

①児童の興味・関心を高める

A パワーポイントで3枚の蒲焼の写真の1枚ずつ提示しました。

1枚目で児童から「うなぎの蒲焼」という言葉がすぐ出てきました。2枚目に同じような蒲焼の写真が出てくると、「あれ？」と考える児童が出てきて、「穴子の蒲焼かな」という言葉が出てきました。3枚目に同じような蒲焼の写真の提示すると、児童全員が「えー？」と考え込んでいました。その時点で児童全員が電子黒板に注目して、一生懸命考えていました。

その後、1つの蒲焼の正体である「なまず」の写真が出てきた時はみんな驚いていました。

★提示の仕方やタイミングなどよく考えられており、児童はとても興味・関心を持ってその後の活動に取り組んでいました。導入としてつかみはバッチリでした！

②児童生徒が発表する

B グループでまとめた気づきや意見はホワイトボードにまとめて、黒板に貼りました。それぞれの意見を発表する時には、説明する資料を実物投影機で映して、電子黒板に拡大提示してどの部分から気づいたり、見つけたりしたのか分かるようにしていました。

★資料のどの部分について説明しているのかを示すことで、全員で共有することができ、分かりやすく説明できていました。

◆ICTを活用するねらいや目的をはっきりとさせておくことが大切です！



次号は3月に発行し、ICT活用モデル校のICT実践例を紹介したいと思います。よろしくお願ひ致します。

